

社 会 科

・ 調査結果と考察	38
・ 学習指導改善のために	44
・ 問題構成表	55
・ 調査問題と正答率	56
・ 採点基準及び個別応答票記入上の手引き	63
・ 応答状況一覧表	66

社会科の調査結果と考察

1 出題のねらいと出題内容

学習指導要領に基づいて社会科の基礎的・基本的な力をみるために、身近な地域について4問、県のようにについて4問、食料生産について6問、工業生産について8問、情報について2問の計24問を出題した。なお、過去の学習状況調査の結果と比較するために、同一問題や類似問題も出題した。また、ペーパーテストでは把握しにくい社会科に関する児童の意識調査も行った。

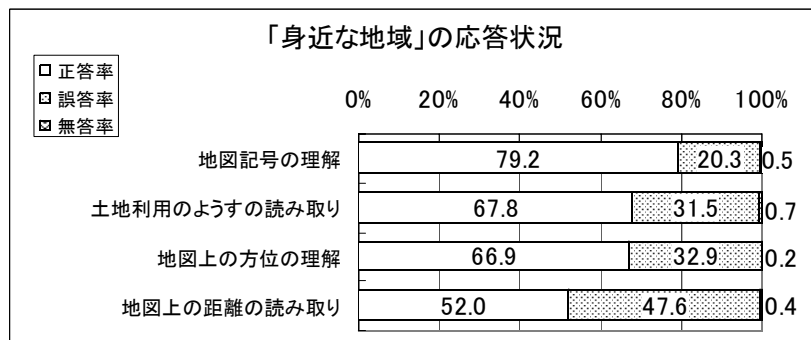
2 調査結果と考察

(1) 内容別の考察

全問の平均正答率は66.6%であった。平成12年度に行った本調査の平均正答率66.2%と比較しても、ほとんど差はない。出題した内容別に、正答率、誤答率、無答率を表したグラフを示しながら、正答率の高い問題と低い問題、過去の問題との比較を中心に考察を述べていきたい。

① 身近な地域

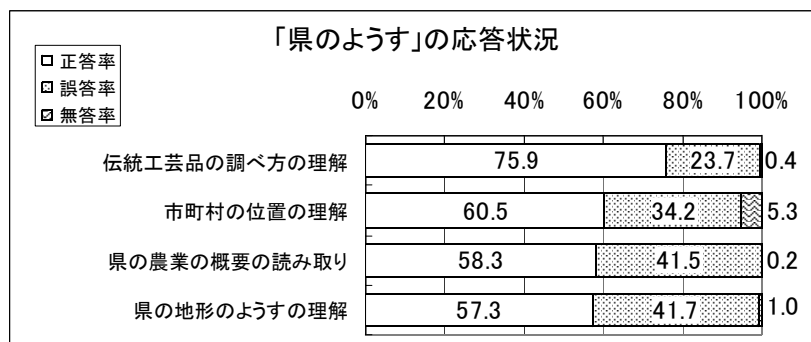
神社と病院の地図記号の理解についての問題の正答率が、79.2%と高かった。対象が児童に身近な存在であること、基本的な地図指導が日常的に行われていることが要因であろう。



一方、地図上の距離を読み取る問題の正答率は、52.0%と低かった。スケール（距離尺）を活用して、地図上で正確に確認するような指導を心がけたい。また、地図上の方位の理解についての誤答率32.9%のうち、東を西ととらえている児童の割合は20.8%で約6割だった。地図の基礎的要素である地図上の地理的位置や四方位を理解し、活用できるようにしたい。

② 県のように

伝統工芸品作りに携わっている人々の工夫や努力を調べる方法を問う問題の正答率は、75.9%と高かった。各学校で、学び方や調べ方を重視した学習が積極的に進めている成果と思われる。



一方、栃木県の山地や平地の位置、広がりを問う問題の正答率は、57.3%であった。児童が、栃木県の地形の概要をイメージできるようにしたい。

今回、学校のある市町村の位置を問う問題を新しく出題した。正答率は60.5%でほぼ

想定した通りだが、隣接していない離れた市町村を答えた児童の割合は、誤答率と無答率の39.5%のうち19.3%であった。市町村の形を動物やキャラクター等でイメージさせることはよく指導されているが、県内における市町村の位置関係についても、県の地形のようすと併せて指導することが大切である。

③ 食料生産

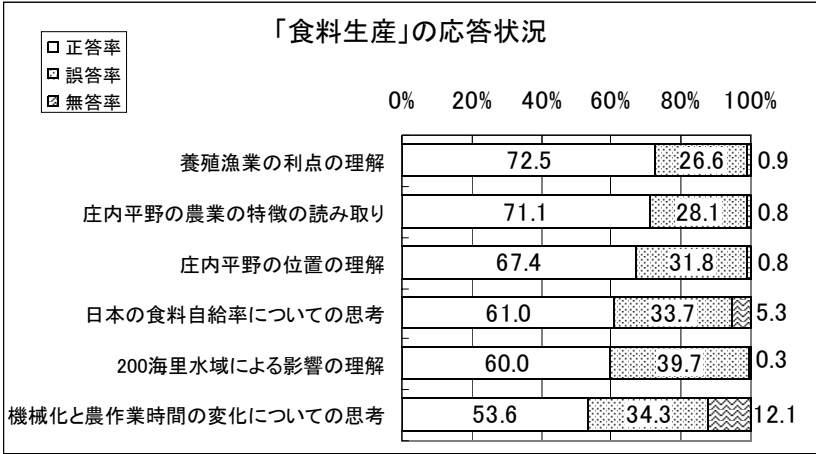
養殖漁業の利点について問う問題の正答率が、72.5%と高く、児童にとってあまり身近とは言えない水産業であるが、予想よりよい結果となった。

それに対して、農業における機械化と米づくりにかかる時

間の変化を二つのグラフから考える問題の正答率は、53.6%と低かった。また、この問題の無答率12.1%は、全問中で最も高かった。これらの原因として考えられるのは、グラフから読み取ったことを基に、指定された二つの「農業機械」と「米づくりにかかる時間」を関連づけて記述するという出題の方法に、児童が慣れていないためと考えられる。

もう一つの記述問題として、3ページの日本の食料自給率についての思考をみる問題を出題した。正答率は61.0%で、想定していた割合よりも上回った。無答率は5.3%で、前の農業の機械化と作業時間のグラフから見取ったことを基に記述する問題よりも低くなった。「これからも、外国から食料を輸入すべきです。」という意見に「賛成」「反対」「その他の考え」という児童自身の立場を明確にしてから、その理由を記述するという取り組みやすさがあったためと思われる。

この問題には、児童がどんなことを根拠にして自分の立場を決めるのか、確認したいという意図があった。児童は、3種類のグラフ、既習事項や各自の経験を基にして、自分の立場を決めた理由を記述した。その内容等を表したのが、下表である。提示されたグラフを活用して理由を考えた児童の割合は、9.2%〔賛成（5.7%）反対（3.5%）〕。

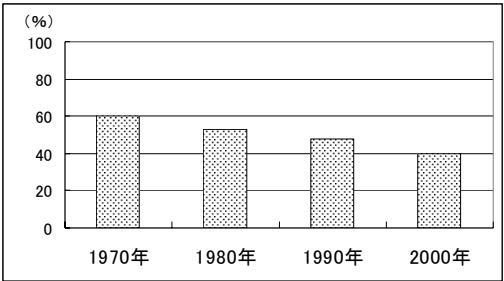


		記 述 内 容	応答率 (%)		
正答	賛 成	輸入品の方が安いから。工業製品の輸出量が多いから。等	3.8	9.5	61.0
		年々(グラフの)自給率が下がっているので、輸入すべきである。等	5.7		
	反 対	外国で生産できなくなると困るから。国産の方が安心だから。等	10.2	13.7	
		外国は(グラフの)自給率が高いので、日本は輸入すべきではない。等	3.5		
	その他	食料によって自給したり輸入したりすればよい。等		2.8	
賛 成 反 対 その他	日本で生産できない食料が食べられなくなるから。 農家の人が困ってしまうから。 食べ残しなど、自分たちの食生活を見直すことが大切だと思う。等	35.0			
誤 答			33.7		
無 答			5.3		

既習事項や各自の経験に照らして理由を考えた児童の割合は、51.8%〔賛成（3.8%）反対（10.2%）その他（2.8%）それら以外のもの（35.0%）〕になり半数を超えた。このことから、児童は、グラフや文献等の資料よりも、既習事項やそれまでの経験等をフイ

ードバックして、社会的な見方や考え方をしていることが分かった。

6 次のグラフは、日本の食料自給率（食料がどれくらい国内生産でまかなわれているか）のうつり変わりを表したものです。食料自給率が年々下がり、国内生産でまかなわれる割合が減ってきています。これを見て、ちひろさんは吹き出しのように考えました。

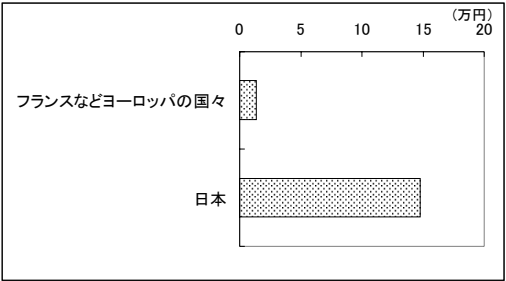


これから、外国から食料を輸入すべきです。

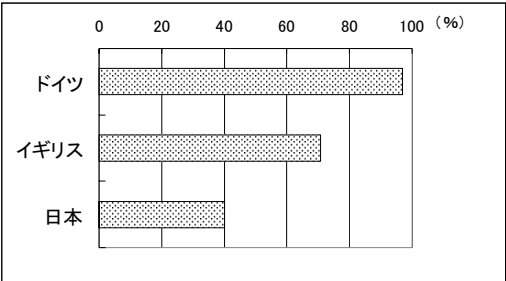


日本の食料自給率（「食料需給表」平成12年より）

あなたは、ちひろさんの考えについてどう思いますか。グラフを見たりこれまでの学習をふり返ったりして、あなたの考えに近いものを下のア、イ、ウの中から一つ選び、その記号と選んだ理由を の中に書きなさい。



小麦1tを農家が出荷するときのねだん
（食糧庁調べ）



世界の主な国の食料自給率
（「食料需給表」平成12年より）

- ア ちひろさんの意見に賛成です。（食料を輸入すべきです。）
イ ちひろさんの意見に反対です。（食料を自給すべきです。）
ウ その他の考えです。

この内容では、過去の問題の正答率と比較するために、地図上の四つの地域から庄内平野の位置を選択する問題とグラフから

過去の対象学年との比較

（ ）内は、無答率

問 題 の ね ら い	正答率 (%)			増 減 (平成6との比較)
	平成2	平成6	平成14	
庄内平野の位置についての知識・理解	58.3 (0.2)	62.9 (0.2)	67.4 (0.8)	+4.5 (+0.5)
庄内平野の農業の特徴を読み取る資料活用力	79.5 (0.5)	78.0 (0.5)	71.1 (0.8)	-6.9 (+0.3)

ら庄内平野の農業の特徴を読み取る問題を出題した。その正答率を比較したものが、上表である。

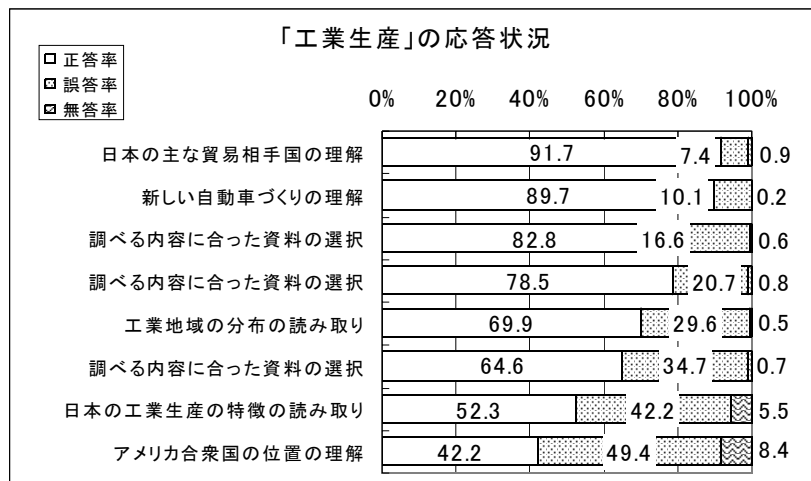
庄内平野の地理的位置の理解については、正答率が上がっている。しかし、庄内平野の農業の特徴を読み取る資料活用力については下がっている。これは、米の品種改良、日照時間を活用した米づくり、たい肥づくり、米の品質管理という事実である四つの選択肢から、提示された資料から分かるものを選ぶという出題形式にして、問題の難易度を上げたためと考えられる。

④ 工業生産

輸出入額のグラフを参考に、「アメリカ合衆国、ブラジル、フランス、インド」の中から日本の主な貿易相手国を選択する問題の正答率は、91.7%と全問中最も高かった。過去の問題と比較しても、ほとんど差はない。アメリカ合衆国が授業で取り上げられるだけでなく、児童の生活の中でも深いつながりのある国の一つになっているためである。

しかし、そのアメリカ合衆国の地理的位置を問う問題では、正答率は42.2%で、全問中最も低い正答率だった。過去の問題と比較しても、正答率が低下している。アメリカ合衆国の地理的位置について、児童の解答類型をまとめたものが右表である。アメリカ合衆国以外の北アメリカ州26.8%、アジア・ヨーロッパ州15.7%が、誤答の中では高くなっている。教科書等にある図だけでなく、地図帳でその地理的位置を正確に確認する活動を授業の中に位置付けたい。

正答率の低い問題として、日本の工業生産の特徴をグラフから読み取る問題もあげられる。右に示した1935年と1998年の種類別生産額の割合のグラフを比較して、大きな変化を読み取る問題である。グラフから、「繊維工業の割合が減って、機械工業が増えた。」といふ二つの大きな変化を読み取って記述した正答率は、52.3%だった。最近（1998年）と過去（1935年）のグラフを比較して、現在からだけの一面的な見方ではなく、二つの時代の変化を読み取る多面的な見方ができるように、丁寧な指導を心がけていきたい。

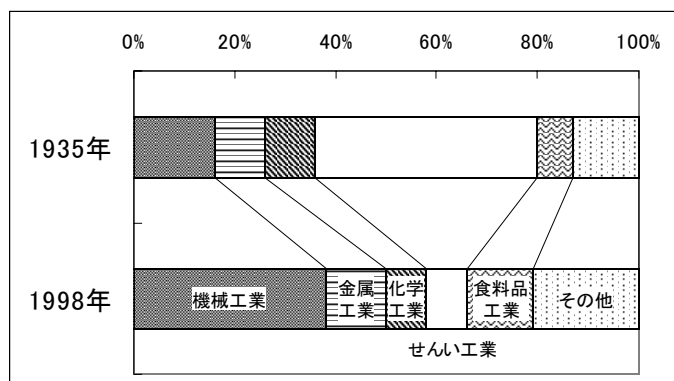


過去の対象学年との比較 ()内は、無答率

問 題 の ね ら い	正 答 率 (%)			増 減 (平成6と の比較)
	平成6	平成12	平成14	
工業地域の分布についての資料活用	74.3 (0.5)	59.2 (0.5)	69.9 (0.5)	+10.7 (0.0)
日本の主な貿易相手国についての知識・理解	94.2 (0.1)	91.7 (0.5)	91.7 (0.9)	0.0 (-0.4)
アメリカ合衆国についての知識・理解	56.6 (4.8)	52.3 (7.0)	42.2 (8.4)	-10.1 (-1.4)

アメリカ合衆国の位置関係

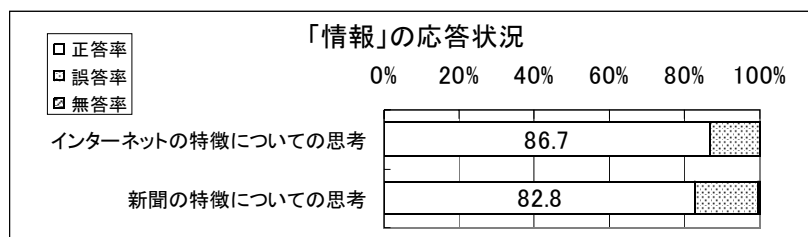
	解 答 類 型	応答率 (%)
正 答	アメリカ合衆国	42.2
誤 答	アメリカ合衆国以外の北アメリカ州	26.8
	南アメリカ州	4.1
	アジア・ヨーロッパ州	15.7
	オセアニア州	1.4
	アフリカ州	1.4
無 答		8.4



種類別生産額の割合のグラフを比較して、大きな変化を読み取る問題である。グラフから、「繊維工業の割合が減って、機械工業が増えた。」といふ二つの大きな変化を読み取って記述した正答率は、52.3%だった。最近（1998年）と過去（1935年）のグラフを比較して、現在からだけの一面的な見方ではなく、二つの時代の変化を読み取る多面的な見方ができるように、丁寧な指導を心がけていきたい。

⑤ 情報

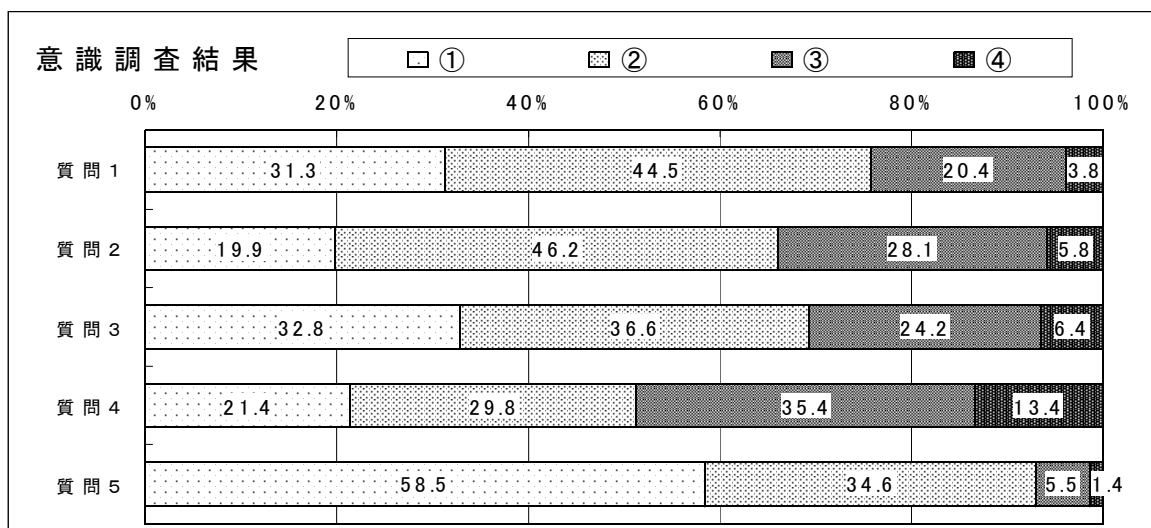
情報を手に入れる手段として、新聞とインターネットの特徴をとらえる問題である。正答率は、それぞれ82.8%、86.7%と共に高かった。



(2) 意識調査の結果から

県内の小学校第5学年の児童が、社会科の学習に関してどのような意識をもって取り組んでいるのかを把握するための調査を、5項目について実施した。その結果は、下のグラフの通りである。

- 質問1 あなたの住んでいる市・町・村や栃木県などの学習を楽しんでいると感じることがありますか。
① よくある ② わりとある ③ あまりない ④ ほとんどない
- 質問2 日本の産業や国土の学習を楽しんでいると感じることがありますか。
① よくある ② わりとある ③ あまりない ④ ほとんどない
- 質問3 地域の自然や人々の暮らし、産業などを取り上げたテレビ番組や新聞などを、見たり読んだりすることがありますか。
① よくある ② わりとある ③ あまりない ④ ほとんどない
- 質問4 知らない地名や社会のできごとについて見たり聞いたりすると、地図帳や本、インターネットなどで調べようとしますか。
① している ② わりとしている ③ あまりしていない ④ していない
- 質問5 社会科の学習は、これからの自分の生活に役立つと思いますか。
① よく思う ② わりと思う ③ あまり思わない ④ ほとんど思わない



社会科の学習を楽しんでいると感じることについて質問1と質問2で聞いたところ、「よくある」「わりとある」を合わせた割合は、身近な地域（質問1）では75.8%、産業や国土の学習（質問2）では66.1%である。小学校第3学年及び第4学年の身近な地域の学習では、見学や調査活動等の体験的活動が多く取り入れられるのに対して、小学校第5学年の産業や国土の学習においては、取り上げる事例が日本全体に広がり座学中心の授業が進めらる傾向にあることを反映していると思われる。学校や児童の実態に応じて、体験的活動を取り入れやすいように取り上げる事例を入れ替えたり、作業的な学習や問題解決的な学習な

ど主体的な学習を工夫したりして、児童の興味・関心を喚起しながら、学習を進められるようにしたい。

学習内容に関するテレビ番組や新聞を見ること（質問3）が「よくある」「わりとある」を合わせた割合は、69.4%である。今後も、日常生活での興味・関心と結び付けて、社会科の学習を進めていくことが大切であろう。

地図帳や本等の活用度（質問4）については、「あまりしていない」「していない」を合わせた割合は48.8%で、ほぼ半数近くになっている。問題解決的な学習等を進める中で、地図帳や本、インターネット等を使って調べる必要性や有用性を実感させながら、それらを活用する態度を育てていきたい。

社会科の学習は、これからの自分の生活に役立つかということ（質問5）については、「よく思う」「わりと思う」を合わせた割合は93.1%と高い。小学校第5学年では授業で取り上げられる事例が日本全体に広がり、新しい社会的事象との出会いがあったり理解が深まったりしたためと思われる。社会の出来事や地名等を理解するだけでなく、社会的事象の意味や働きなどを考えたり自分の意見を明らかにしたりすることでも、社会科の有用感をもてるよう指導の工夫・改善に努めたい。

3 まとめと今後の課題

(1) 身近な地域

- ・ 地図記号についての理解はおおむね良好と判断される。
- ・ 地図上の距離を測ったり、方位を確認したりすることには、不十分な面がある。第5学年までの地図を活用した学習の中で、縮尺や四方位についての丁寧な指導が望まれる。

(2) 県のように

- ・ 調べる対象や内容によって、インタビューや資料の収集・分析といった具体的な方法で学習が進められているので、調べ方や学び方はおおむね身に付いてきていると判断される。
- ・ 県内の市町村の地理的位置や県の地形の概要の理解については、不十分なところがある。見て覚えるという暗記型の学習ではなく、調べたり作業をしたりしながら理解する主体的な学習の充実が一層求められる。

(3) 食料生産

- ・ 養殖漁業の利点や庄内平野の位置についての理解、庄内平野の農業の特徴を諸資料から具体的な事実として読み取る力は、おおむね良好と判断される。
- ・ 複数の資料から読み取ったことを基に、比較したり関連付けたりしながら思考する力が不十分と思われる。「資料を見て分かった」だけでなく、そこから関連する資料を探したり、他の事実と比較させたりする活動を工夫する必要がある。
- ・ 社会的事象の意味や働きについて、自分なりの意見や考えをもつことはおおむね良好と判断される。しかし、それが単なる思いつきや感覚的なものではなく、その根拠となるべきものを明確にできるような指導の充実が求められる。

(4) 工業生産

- ・ 日本の主な貿易相手国やこれからの自動車づくりについての理解、調べる内容に応じた資料活用力については、おおむね良好と判断される。
- ・ 資料を読み取る際に、多面的な見方ができるよう指導の改善が望まれる。
- ・ アメリカ合衆国の地理的位置についての理解が不十分である。世界地図や地球儀を効果的に用いて、繰り返し指導する必要がある。

(5) 情報

- ・ 情報の適切な収集や活用の仕方については、おおむね身に付いていると判断される。

社会科の学習指導改善のために

学習状況調査の結果から、次のことが主な課題としてあげられました。

- ・地図の読み取りの力や地理的感覚を育てる指導の工夫
- ・資料活用能力を育てる指導の工夫
- ・問題解決能力を育てる指導の工夫

これらの課題の解決のためには、これまで行われてきた学習指導の基本的なことをもう一度確認し、社会科で身に付けさせたい力を育てていくことが大切だと思います。

Q 1 児童の地図を読み取る力や地理的感覚を育てるために、授業の中でどのように指導したらよいのでしょうか。

A 1－1 児童が調べたり作業をしたりしながら地図に親しめるように、教材や活動を工夫しましょう。

社会科の授業で地図を資料として活用するためには、地図を正しく読み取る力が必要です。児童の発達段階に応じて、地図の仕組みを理解し、その種類に応じた活用の仕方を身に付けるようにしましょう。そのためには、調べたり作業をしたりしながら、楽しく地図に親しめるような教材や活動が効果的です。その例をいくつか紹介します。

1 カード等を工夫しよう

(1) 地図記号カルタ

カルタと同じ要領で、写真のように絵札に地図記号、読み札にその記号が表すものを書いたカードを作り、カルタ遊びをしてみましょう。グループで楽しくできます。



絵 札



読み札

絵札の裏側に地図記号が表

すものを書けば、フラッシュカードとして学級全員で利用することができます。

(2) 都道府県カードづくり

個人やグループで都道府県カードを作って、カルタ遊びなどをしながら都道府県名やそれらの特色を理解させましょう。東北地方や関東地方ごとにカードを色分けしたり、特産物のイラストを入れたりすると分かりやすくなります。後で、新たに分かったことを書き込めるようなスペースを空けておくとい



都道府県カード

(3) 都道府県ビンゴゲーム

都道府県名を自由にマスの中に書いて、教師が発表した都道府県名に○を付けていきま

す。都道府県の地理的位置を確認するために、初めは地図を見ながら行うのもいいでしょう。地方ごとに行ってもかまいません。「ビンゴ!」になった順番に得点を与えるなどゲーム的な要素を入れると、盛り上がるでしょう。

また、7ページの(2)で紹介した都道府県カードを、写真のようなビンゴカードと同じように9枚並べて行うこともできます。カードに印を付けることはできませんから、カードの表を裏にすることでその代わりとします。



都道府県ビンゴゲーム

(4) シルエットクイズ

栃木県（市町村別）や日本（都道府県別）の白地図を画用紙にコピーし、それぞれの形に切り取りましょう。それらを使って、グループごとに市町村名や都道府県名を当てたり、カルタ取りをしたりします。学級全員で行う場合には、切り取ったものをOHPでスクリーンなどに映し出しと盛り上がります。その際、裏表や東西南北が分かるように印を付けておくと、操作しやすくなります。

パズルとして利用することもできます。栃木県や日本を完成させながら、自分の住む市町村や栃木県の地理的位置、隣接している市町村や都道府県との位置関係を確認するわけです。

また、市町村、都道府県や日本などの形をとらえさせる際に便利なのが、トレーシングペーパーです。書き写させたい地図の上にトレーシングペーパーを当てて、鉛筆などで描図させます。正確さを求める必要はありません。大まかな形の方が、動物やキャラクターをイメージしやすいのです。擬似法と呼ばれるこの方法は、児童に市町村や都道府県に対する親しみをもたせ、地図への興味・関心を喚起することになります。

2 地図帳で遊ぼう

(1) 地名探し

地図帳の巻末にある索引を使います。これは、地図帳を使って指導する際の必須事項であり、当然身に付いていなければならないはずです。しかし、中学校や高校の教師からは「索引の使い方が分からない生徒が意外に多い。」という話をよく聞きます。確かに、教科書や資料集によっては、学習する地域の位置が示されているものが見られるようになり、地図帳を開かなくても事足りるようになってきました。しかし、その地形の概観や隣接する地域をとらえるには、地図帳で確認することが大切です。

教師が授業の中で取り上げる事例地などを示し、児童が索引を使ってその位置を見つけるようにします。指導する時は、教室の座席表と同じような感覚です。例えば、索引にある地名のところに「35A4」とあれば、地図帳が縦横に区切られている線を基に、35ページの横A列の縦の4列目の区画のところを探させます。つまり、索引を地名の住所として活用させるわけです。

(2) 地図帳旅行

「自分の住んでいる市町村や栃木県から、100km離れている所に旅に出よう。」

「1000km旅行の行き先は？」

スケール（距離尺）を利用して、他の市町村や都道府県、外国との距離を調べながら地図帳の上を旅してみましょう。そこはどんな所ですか？地形のようすや盛んな産業は？どんな気候ですか？地図帳から、その地域の特色を見つけてみましょう。その際、スケール（距離尺）を測り取るための定規、糸、コンパスなどを準備しましょう。

例えば、地図帳で宇都宮市から100km離れている所に旅に出てみると…。写真は、その時に調べたことを地図帳に表したものです。



南に行ってみると



北に行ってみると

(3) 旅行シュミレーション

児童の住んでいる所から教師が提示した目的地まで、地図帳を使って旅行プランを作ります。児童には、交通手段や立ち寄りたい所などを考えさせます。また、移動時間を計算させることで、距離感を養うこともできます。

A 1－2 発達段階に応じて、いろいろな地図を提示したり利用させたりしながら、距離感や地理的位置の理解など、地理的感覚の育成に努めましょう。

児童の地理的な学習は、生活科の学校の周りの探検に始まり、社会科では自分の住んでいる市町村、栃木県、日本、そして世界へと次第に広がっていきます。つまり、身近な地域からより遠い地域へと広がるにつれて、大きさや広さ、距離感など、空間的・時間的な感覚も発達段階に応じて育てていくことが大切です。

1 教室への地図の掲示

低学年においては学区地図、中学年では市町村や栃木県の地図、高学年では日本地図や世界地図というように、児童の発達段階に応じた地図と親しむようにすることが大切です。そのためにも、教室には日常的に地図を掲示しておきたいものです。そして、様々な機会をとらえて、自分の住んでいる所や授業で取り上げた地域の位置を確認させたり、他の地域との距離、広さや地形を比較させたりして、意図的に活用していきます。そのことによって、その地域についての地理的認識が育っていくことになります。

2 教師の自作した地図の利用

地図には、学習したことをまとめて書き込んだりパンフレットなどを貼り付けたりと、自由な使い方ができます。地図をOHPシートにコピーして、OHPで用途に応じた大きさに拡大して映したものを模造紙に写し取るだけで、学習内容に合った地図を簡単に自作できま

す。

3 学習に役立つ様々な地図の利用

児童が、調べ学習などで自分の調べる目的や内容に応じて、必要とする地図を活用できるようにすることが大切です。そうした力を育てるためには、教師がいろいろな地図（地形図・地勢図・住宅地図・道路地図・立体地図・分県地図・全国地図・世界地図・インターネットで検索した地図など）を用意して提示し、どの地図がどんな学習の際に役立つのか、経験的に学ばせるようにしましょう。

4 生活の中で地図に親しむ活動の工夫

(1) 校外学習、遠足、旅行などにおいて

児童が普段の学校生活や家庭生活の行動範囲を離れ、未知の場所に出かける体験は、地理的感覚を育てるよい機会です。その事前や事後に、地図を使ってコースの確認や距離の計測をしながら、途中の地域の地形や土地利用のようすなどを調べます。このようなことが、実体験と結び付き、地図をより身近なものにしていくでしょう。

(2) ニュースや新聞記事から

高学年では、ニュースや新聞記事を学習に利用することが多いと思います。その際、国内だけでなく海外の時事問題なども取り上げ、その地域がどこに位置するのかを、地図上で確認させましょう。また、朝の会の1分間スピーチなどで、その日の朝のニュースで興味をもったものを紹介し、教室に掲示した地図に書き込んでいく方法も考えられます。

Q 2 資料活用能力を育成するためには、どのように指導したらよいのでしょうか。

社会科では、社会の変化に自ら対応する能力や態度の育成を図るために、学び方や調べ方を大切にした児童の主体的な学習を一層重視しています。そのため、児童が自らの問題意識をもって、その解決の見通しを立ててから、必要な情報を収集し、それらを活用・整理して問題を解決していく学習活動を構成することが大切になってきます。

また、社会科の授業では、社会的事象に関する事例を取り上げて授業を進めていきますから、地域や学校の実態に応じて選択した事例を扱った学習が益々重要になってくるでしょう。そうになると、その事例についての資料を基に学習を進めることになります。そのためにも、児童の資料活用能力の育成は不可欠です。

A 2—1 基本的な「資料」の読み方を指導し、思考が深まるようにしていくことが大切です。

授業では、本時のねらいに迫れるような資料を取り上げることは言うまでもありません。しかし、教師が効果的な資料をいくら準備しても、児童が資料そのものを読めなくてはなりません。社会科の授業がうまくいかないのは、児童に資料を読むポイント、いわゆる読み方が理解できていないということが意外と多いのです。

ここでは、授業の中で資料として数多く使われる数量の変化を表したグラフを例にして、その指導の在り方について考えていきます。

1 タイトルを読む

提示されたグラフのタイトルからそのグラフが何を表しているのか、的確につかむようにします。ただし、タイトルの意味が分かりにくいグラフもあるので、その場合は補足しておきます。

2 単位、年度等をチェックする

児童は、縦軸や横軸にある単位を読まずにいたり、年度を西暦または昭和や平成などの年号とまちがえたりすることがあります。特に、長さや量の場合、大きな単位になるとイメージがわきにくいので、具体的なものに置き換えるようにします。

3 変化を読み取る

特に、数量の増減などの変化に着目させるようにしましょう。ただし、増えたとか減ったとかだけでなく、ある年度と比較して変化の割合を見たり、量の推移を予想するといった観点を適宜与えるとよいでしょう。

4 変化の理由を考える

特に、大きな変化に注目させます。他との比較や移り変わりの中で、特に大きく変化するということは、何らかの理由や背景があるはずです。その点を考えさせることが大切です。この繰り返しを資料を基にして思考を深めることにつながります。その資料や既習事項だけでは無理な場合には、児童の理解を助ける資料や助言などを準備しておきます。

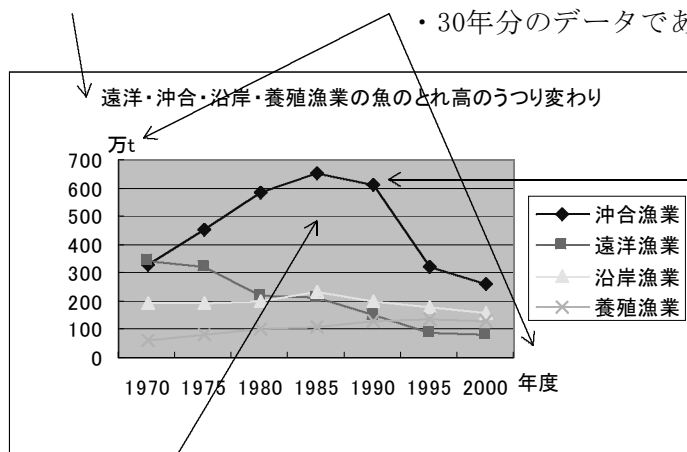
以上のことを、水産業の漁獲高についてのグラフで考えると、次のようになります。

タイトルを読む

漁業の種類やとれ高
などの用語に注意

単位、年度等をチェックする

- ・とれ高の単位
- ・年度が西暦表示で、5年ごとになっていること
- ・30年分のデータであること



グラフの変化を読む

- ・沖合漁業のとれ高は、増加した後に減少している。
- ・遠洋漁業は減少している。
- ・沿岸漁業は変化が少ない。
- ・養殖漁業は徐々に増加している。

変化の理由を考える

沖合漁業のとれ高の推移を見ると、1985年あたりで増加が止まり、大きく減少していることが分かる。それが、他の漁業と比較すると極端である。このことから、その背景に200海里問題などが大きく関係していることに気付かせる。

ポイント

- ・大きな変化に着目
- ・その理由や背景の推察

A 2—2 まず資料から分かることや見えることを読み取らせ、次に資料では分からないこと、見えないことを類推できるように指導していきます。

「この資料から、どんなことが分かりますか？」

というような教師からの問いかけで、児童は提示された資料を読み取ります。まず、分かるところから読んでいくという「読み方」を指導します。最初は、ブレンストーミングで児童の気付いたことをどんなことでも出していくというようにするといいいでしょう。

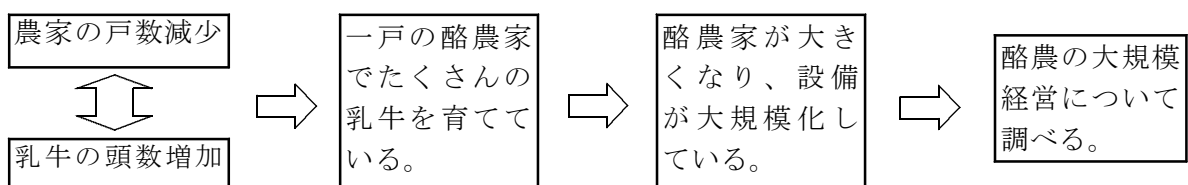
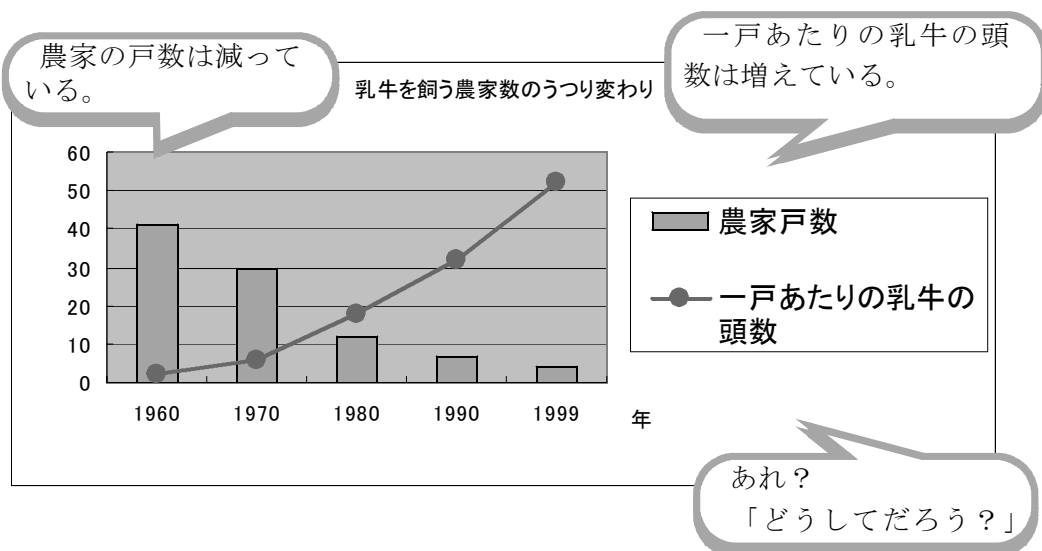
次に、分かることから分からないこと、見えることから見えないことを類推していくようにします。このことが資料を多面的に深く読み取るということです。多様な深い読み取りが、「思考を深める」ということになります。関係ないと思われていた二つのことが、別な視点から見ると実は大いに関係があり、それらを関連させて分からないことや見えないことに結び付けていきます。

以上のことを、次のグラフ「乳牛を飼う農家数のうつり変わり」を例に考えてみましょう。

棒グラフは、乳牛を飼っている農家、つまり酪農家の戸数を表しています。年々減少していることが分かります。一方、折れ線グラフは、一戸あたりの乳牛の頭数を表しています。こちらは、年々増加しています。児童から、「酪農家の戸数が減少しているのに、どうして飼育されている乳牛の頭数は増加しているのだろう。」という疑問が生まれてきます。

児童の中から、グラフの一戸あたりの乳牛の頭数に着目して、「一戸の酪農家で、たくさんの乳牛を育てるようになったからではないだろうか。」という考えが出されます。そして、その考えを確かめるために、児童自ら資料を集めたり、実際に見学に行ったりして、酪農家の設備が充実し大規模経営になったことを理解していきます。

このようにして、グラフから読み取った酪農家の減少と飼育されている乳牛頭数の増加という矛盾点から、現在の日本における酪農の様子にまで児童の思考は広がりや深まりを見せます。



第5学年で進める産業学習では、事例を取り上げて授業を進めることになります。そのために、例えば農業の単元であれば、米づくりの盛んな庄内平野の学習で終わってしまうことがあります。しかし、学習指導要領第5学年の目標(1)には、「我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展に関心をもつようにする。」と記されています。一つの事例の学習で単元が終わらないように、グラフのような統計資料や分布図を活用して児童の視野や思考が日本の農業に広がるように授業を進めていくことが大切です。

Q 3 問題解決能力を育てる指導が大切だと聞きましたが、どうしてですか。また、指導する際のポイントはどんなことですか。

A 3-1 児童のこれからの生活や学習に役立つ知識、社会的な見方や考え方を獲得できるようにしなければならないからです。

これまでの社会科では、取り上げられた社会的事象についての細かな知識を教え込む授業が一部に見られました。しかし、そういった知識は、時間の経過とともに過去のものとなって将来の生活や学習に役立たなくなること、その意味や働きをよく理解していないために他の事柄と比較・関連させたりすることができなくなることが考えられます。

これからの社会科では、児童がこれからの生活や学習に役立つ知識を獲得し、社会的な見方や考え方を身に付けることができるように、学習指導の改善を図っていくことが望まれています。そのためには、指導計画の中に問題解決的な学習過程を意図的に組み入れ、児童の社会的事象についての問題意識を高めて学習を進めていくことが大切です。ここでは、児童の問題意識の高まりをキーワード「問い」として、考えてみましょう。

たかし君は、日本ばかりでなく世界中で環境問題がとても深刻になっていることを学習しました。しかし、自分の生活とはあまり関係のないところで起こっているという感覚の中で生活していました。ある日、担任の先生から毎日一つ以上家の手伝いをするよう指導されたたかし君は、毎朝、ごみ出しをすることにしました。ここで驚いたのは、ごみの総量でした。今までごみ箱に一杯になっている程度しか見たことのなかったたかし君は、毎日出されるごみの量にびっくりしてしまいました。ここで、たかし君は初めてごみの問題に関心をもち始めました。

「問い」を持つ



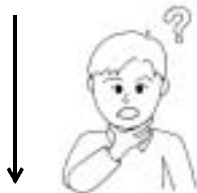
「なぜ、こんなに大量のごみが出てしまうんだろう？」

ある日、たかし君は夕飯でアサリのみそ汁を飲みました。アサリのみそ汁はたかし君の大好物です。何杯もおかわりをしました。そして、目の前にはたちまちにしてアサリの貝殻がうず高く積み上げられました。ここでたかし君は、ごみ出しで芽生えた「問い」をさらに深めます。



「問い」について考える

「貝のかなりの部分はごみだったのではないか？」



これまで考えたこともなかったひらめきに、たかし君は引き込まれていきました。「貝殻の重さからいっても、アサリの半分以上はごみだったに違いない。」こんな自問自答を繰り返し、たかし君の「問い」は更に広がります。

「問い」への予想を立てる

「他の食べ物も、かなりの部分がそのままごみとなるに違いない。」



たかし君は、自分の予想を確かめたくて仕方ありません。

「問い」について知りたくなる

「どうやって調べよう……。」



たかし君は思案をめぐらしました。

- ・実際に重さを量って調べる。
 - ・本で調べる。
 - ・清掃センターなどに行って聞いてみる。
- などが思い浮かびました。

資料集めをする

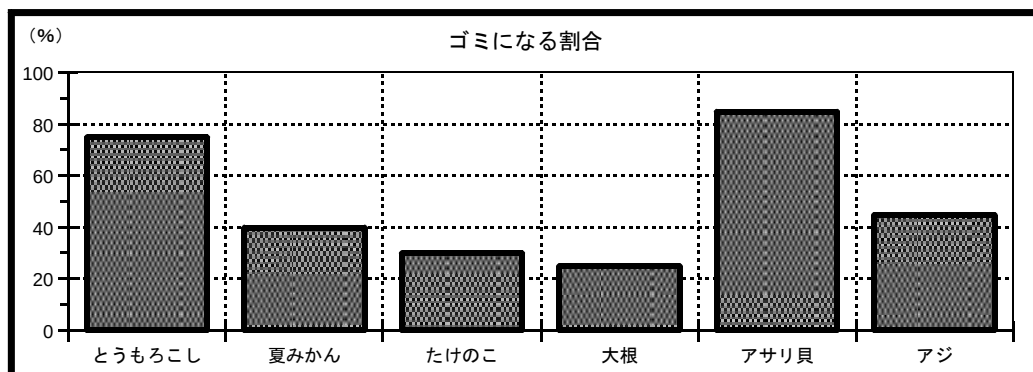
家の人に協力してもらい、実際に食事に出た食材の元の重さとごみとなったものの重さを量るようにしてみました。やはり、ごみの量はかなりの割合となるようでした。ある程度の手応えは得たものの、自分の予想がこれで十分証明されたという自信はたかし君にはまだありませんでした。

次に、図書室で環境問題やごみ問題について書かれた本を読みました。しかし、ごみが大量に出るということはいろいろな本に書いてありましたが、たかし君が考えていた予想に直接答えてくれるような本は、見当たりませんでした。

そこでたかし君が思い浮かべたのが、最近学校で教わったばかりのインターネット検索という方法です。パソコンなら家にもあるので、



お父さんに頼んで仕事用のパソコンで調べさせてもらいました。すると……。ありました。たかし君が知りたい内容にぴったりのホームページが見つかったのです。たかし君はずっと探していた宝物を手にしたような、天にも昇る心地で小躍りしました。「君はごみを買っている」と題するそのページには、このようなグラフが載っていました。



たかし君の予想は正しかったようです。更にそこからいろいろなリンクをたどって

いくと、札幌市の清掃局へたどり着きました。ここに書いてあった内容は、たかし君をまた驚かせました。そこには、こんなことが書かれていました。

ごみ処理にかかる費用は

- ・ 1 t で 4 万円近く。
- ・ 家庭用ごみ袋 1 個で 2 7 0 円。



たかし君が毎日のように運んでいるあのごみ袋 1 個で 2 7 0 円……。これまでごみ処理の費用などタダだと思いこんでいたたかし君にとって、これは大きな驚きでした。両親がごみ処理のためにお金を支払っている姿など、一度も見たことのなかったたかし君にとっては、思いもよらないことだったのです。

しかし、パソコンで得た知識だけでは、今ひとつ確信のもてないたかし君は、本当にこれが現実なのか知りたくなりました。考えてみると、普段あまり気にかけることもなかったのですが、家からそう遠くないところに、市の清掃センターがあることに気づきました。そこで、たかし君は、直接清掃センターに出向いて話を聞いてくることにしました。その結果、たかし君の市でも札幌市とほとんど同じ状態で、ごみ問題はとても深刻な状態となっていることが分かりました。

これまでに調べたことを自分の言葉で考える

ここまで調べてきて、たかし君には二つのことがはっきりと見えてきました。

- ・ 人間がどんなに気を付けても、必ずごみは出てきてしまう。
- ・ ごみの処理は無料ではない。

社会的意味や役割を考える 「では自分や社会はどうするのか？」

その後、たかし君は次のようなことを自分に語りかけるようになりました。



- ・ 必要でない物は、むやみに買わないようにしましょう。
- ・ 食べ物はできるだけ残さず、無駄なく食べよう。
- ・ できるだけごみを出さない生活を心がけよう。
- ・ まだ使える物は、工夫してもう一度使おう。

しかし、よく考えてみると世の中には数え切れないくらい多くの人たちが住んでいます。上のようなことを行動に移すことは大切だけれど、自分一人だけがいくらがんばっても、ごみ問題は解決しません。「今はまだ難しいけれど、この社会に住んでいるすべての人たちが、自分と同じようなことに気づき、同じような問題としてとらえ、同じように行動できるようになる日がいつかくるといいな。」とたかし君は願うようになりました。

ごみ問題にはあまり関心のなかったたかし君でしたが、身近なところから発した「問い」が、結果として社会の中で生きる自分の存在に気づかせ、自分の考えや生き方を自分自身に問いかける大きなきっかけとなりました。

いかがでしょうか。知識量を重視する社会科、グラフ等の資料から正確なデータを読み取る

力を重んじる社会科，調べることに重きを置きながらもそのままになっている社会科。これまでのそんな授業の在り方を，児童の問題意識の高まりを大切にしたい問題解決能力の育成という視点から改善していきましょう。

A 3－2 問題解決能力を育てるポイントは，次のようなことです。

1 「問い」の高まり

児童が自ら考え，進んで追究しようとする原動力は，前述のたかし君の例のような，泉の如くわき出る連続した「問い」です。常に社会的事象に対するアンテナを高くして，「なぜだろう」「不思議だな」「確かめてみたい」など，まず自らの心のつぶやきが生まれることが何より大切です。

社会科の授業以外でも，児童が「問い」を持ち続けるよう支援していくことが大切です。例えば，「はてなカード」や「はてな帳」のようなワークシートを準備して支援していくことは有効です。

2 体験の重視

生活体験が不足していると，豊かな連続した「問い」は生まれにくいものです。その意味では，本やインターネットといった間接的な対象からの情報よりは，まずは実体験や実物を重視する教師側の姿勢が求められます。例えば，インターネットを使う場合でも，学習内容によっては，サイト上の情報を児童に検索させるだけでなく，他の学校とお互いの地域のことをメールで教え合ったり，資料を交換し合ったりするような活動につながるように支援していくことが大切です。

一方で，「活動あって学びなし」という学習に陥らないように留意しましょう。ただ単に体験しただけでなく，その体験からどんな社会的な意味を見いだしたのか，自分は社会とどう関わっていこうとするのかという点が，しっかりと導き出されなければなりません。これは，学習指導要領に示されている「公民的資質の育成」とも関わります。

3 問題解決の見通し

児童自らが問題を解決しようとする態度を育てるために，問題解決の方法や手順を明らかにし，見通しをもって学習を進められるようにします。例えば，自分の「問い」についての予想を立て，それを確かめるために調べることは何なのか。それをどんな資料や方法で調べればよいか。また，どんなふうにまとめれば調べたことを伝えられるか。学習の見通しをもつ活動を，学習計画の中に位置づけるようにします。

4 多様な視点や方法に応じた調べ活動の充実

児童の一人一人の「問い」に応じた多様な調べ活動を支援していくためには，個別指導やティーム・ティーチング等の指導体制を整えることが必要です。例えば，小学校第6学年で取り上げる第二次世界大戦中の人々の生活の様子について，児童が衣・食・住と当時の学校や子どもたちの様子の四つの面から調べていく場合，次のような工夫ができます。

コース	学 習 内 容
人々の服装	・ もんぺ姿のボランティアの方に，児童から質問をする。 ・ 千人針を体験しながらボランティアの方からの説明を聞く。

当時の食事	・ボランティアの方に、食生活の様子を質問する。 ・すいとんや雑炊を試食する。
当時の住居	・ボランティアの方に、灯火管制や防空壕での様子について説明を聞く。 ・真っ暗な部屋で空襲のテープを聴く。
学校や子どもたちの様子	・ボランティアの方に、学童疎開や学徒動員の説明を聞く。 ・自転車のチューブを利用したゴム跳びを作る。

学習内容にもよりますが、児童の多様な調べ活動に対応するためにボランティアの方を招いて複数の学習コースを設定し、グループや個人ごとに調べることができるように支援していくことも考えられます。

5 調べたことから考える活動の工夫

調べたことを基に児童が意見や考えを述べ合い、お互いの見方や考え方の共通点や相違点に気付く活動が大切です。ここでは、小グループによるディベートの手法を紹介します。学級全体で一斉に行う方法もありますが、小グループで進めれば、短時間で多くの児童が意見を述べることができます。方法は、次のとおりです。

- (1) 3人一組のグループをつくります。
- (2) 3人の役割（肯定側、否定側、審判）を決めます。肯定側と否定側は、機械的に決めます。なお、4人の場合には審判を2人にするといいでしょう。
- (3) 教師は、タイムキーパーと司会を兼ねます。時間は、テーマに応じて決めてください。
テーマ例「日本は、これからも外国から食料を輸入すべきです。」
 - ①立論；テーマについて、肯定と否定の理由を明らかにします。（各2分）
肯定側立論「自給率が年々下がっているので、外国から食料を輸入すべきだと思います。」
否定側立論「外国の食料は安全面で心配なので、外国から食料を輸入すべきではないと思います。」
 - ②作戦タイム；反対尋問での質問内容を考えます。（2分）
 - ③反対尋問；立論での相手側に対する疑問や矛盾点を質問します。質問を受けた方は、適宜それに答えていきます。（各3分）
否定側反対尋問「日本の自給率は、どの位下がっているのですか？」
肯定側反対尋問「日本だけが安全だということは、変だと思いませんか？」
 - ④作戦タイム；最終弁論での主張を考えます。（2分）
 - ⑤最終弁論；相手の主張の矛盾点を指摘しながら、自分の立場を主張します。（各2分）
否定側最終弁論「外国ばかりたよっていると干ばつなどがあったら大変だから、外国から食料を輸入せずに自給すべきだと思います。」
肯定側最終弁論「日本は工業製品の輸出額が多いので、外国と仲良くしていくためにも食料を輸入すべきだと思います。」
 - ⑥審判・判定；根拠が明確、共感できるなどから勝敗を判定します。（1分）

(4)一通り終わったところで、役割を代えて続けて行います。

反対尋問の仕方や判定のルールは様々です。勝敗にこだわることもないと思います。調べたことを基に考える場を設定するという目的を重視して、学年や児童の実態に応じて弾力的に工夫していくとよいでしょう。

問 題 構 成 表 (社会)

平成14年度 小学校第5学年

問 題 番 号			通 し 番 号	領 域 等	出 題 の 意 図	観 点			
大 問	中 問	小 問				関 心・ 意 欲・ 態 度	思 考 判 断	資 料 活 用	知 識 理 解
1	1		①	身近な地域	地図上の方位についての理解力をみる				○
	2		②		地図上の距離を読み取る力をみる			○	
	3		③		地図記号についての理解力をみる				○
	4		④		地図から土地利用のようすを読み取る力をみる			○	
2	1		⑤	県 の よ う す	学校のある市町村の位置についての理解力をみる				○
	2		⑥		県の地形のようすについての理解力をみる				○
	3		⑦		グラフから県の農業の概要を読み取る力をみる			○	
	4		⑧		伝統工芸品の調べ方についての理解力をみる				○
3	1		⑨	食 料 生 産	庄内平野の位置についての理解力をみる				○
	2		⑩		資料から庄内平野の農業の特徴を読み取る力をみる			○	
	3		⑪		機械化と農作業時間の変化について考える力をみる		○		
	4		⑫		200海里水域による影響を読み取る力をみる			○	
	5		⑬		養殖漁業の利点についての理解力をみる				○
	6		⑭		今後の日本の食料生産についての考える力をみる		○		
4	1		⑮	工 業 生 産	新しい自動車づくりについての理解力をみる				○
	2		⑯		資料から工業地域の分布の概要を読み取る力をみる			○	
	3		⑰		資料から日本の工業生産の特徴を読み取る力をみる			○	
	4	(1)	⑱		調べる内容に合った資料を選択する力をみる			○	
		(2)	⑲		調べる内容に合った資料を選択する力をみる			○	
		(3)	⑳		調べる内容に合った資料を選択する力をみる			○	
	5	(1)	㉑		日本の主な貿易相手国についての理解力をみる				○
		(2)	㉒		アメリカ合衆国の位置についての理解力をみる				○
5	1		㉓	情 報	情報手段としての新聞の特徴を考える力をみる		○		
	2		㉔		情報手段としてのインターネットの特徴を考える力をみる		○		
意 識 調 査	1				地域学習についての関心や意欲をみる	○			
	2				産業や国土の学習についての関心や意欲をみる	○			
	3				日常生活における社会科に関する態度をみる	○			
	4				地図等の資料を活用しようとする意欲や態度をみる	○			
	5				社会科の学習を自己の生活に生かしていこうとする態度をみる	○			

社会の学習に関する意識調査

この調査は、社会の学習に関して、みなさんがどのような意識をもっているのかをみるためのものです。みなさん自身のことについて以下の質問に答えてください。

性 別	出席番号
6 7	8 9
0	

※性別の記入のしかた
※出席番号が1～9の場合は番号の前に0をつける
(例)出席番号4番・・・04

男子：01，女子：02

次の質問1から質問5について、①～④のうちから自分に最もあてはまるもの一つだけ選び、右の□に番号を記入してください。

質問1 あなたの住んでいる市・町・村や栃木県などの学習を楽しんでいると感じることがありますか。

- ①よくある。
- ②わりとある。
- ③あまりない。
- ④ほとんどない。

1 2

質問2 日本の産業や国土の学習を楽しんでいると感じることがありますか。

- ①よくある。
- ②わりとある。
- ③あまりない。
- ④ほとんどない。

1 3

質問3 地域の自然や人々のくらし、産業などを取り上げたテレビ番組や新聞などを、見たり読んだりすることがありますか。

- ①よくある。
- ②わりとある。
- ③あまりない。
- ④ほとんどない。

1 4

質問4 知らない地名や社会のできごとについて見たり聞いたりすると、地図帳や本、インターネットなどで調べようとしますか。

- ①している。
- ②わりとしている。
- ③あまりしていいない。
- ④していいない。

1 5

質問5 社会科の学習は、これからの自分の生活に役立つと思いますか。

- ①とても思う。
- ②わりと思う。
- ③あまり思わない。
- ④思わない。

1 6

平成14年度 栃木県学習状況調査問題

小学校第5学年社会

組	番	氏 名
---	---	-----

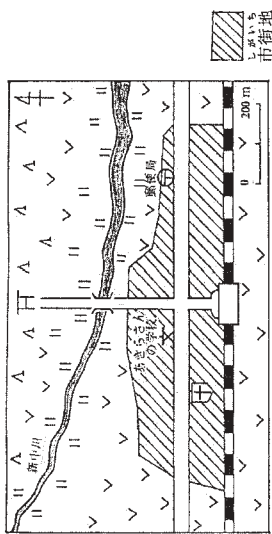
注 意

- 1 つくえの上には、えんぴつ、消しゴム、定規、コンパス、下じき以外の物を、おかないでください。
- 2 表紙の決められたところに、組、番号、氏名を書いてください。
- 3 時間は45分です。
- 4 答えは、かならず、答えのらんに書いてください。答えのらんの右に()がある場合は先生用ですから、なにも書かないでください。
- 5 印刷がはつきりしないときは、手をあげて先生に知らせてください。
- 6 わからない問題はあとまわしにして、ひととおりにやってから、もう一度考えてください。
- 7 時間があまったら、よくみなおしてください。

栃 木 県 教 育 委 員 会

* □内の数字は正答率(%)を示す。

- ① 次の地図は、あきらの学校の周りの様子を表しています。地図を見て、次の1, 2, 3, 4の問いに答えなさい。



- 1 あきらの学校から見て、郵便局はどの方向にありますか。次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

1 北 2 南 3 東 4 西

66. 9%

1の答え

1 2 3 4

- 2 あきらの学校の学校から郵便局までのきよりおそ何メートルですか。次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

1 200メートル 2 300メートル 3 400メートル 4 500メートル

52. 0%

2の答え

1 2 3 4

- 3 地図の中にある下の二つの記号は何と何を表していますか。次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。



1 神社と交番 2 神社と病院 3 寺と交番 4 寺と病院

79. 2%

3の答え

1 2 3 4

- 4 地図から分かる土地利用の様子を正しくのべた文はどれですか。次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

1 川のそばには田が多く、その外側には畑が多い。
2 川のそばには田や畑が多く、その外側には田や畑が多い。
3 駅や鉄道のそばには田や畑が多く、川のそばには田が多い。
4 駅や鉄道のそばには林が多く、川のそばには田が多い。

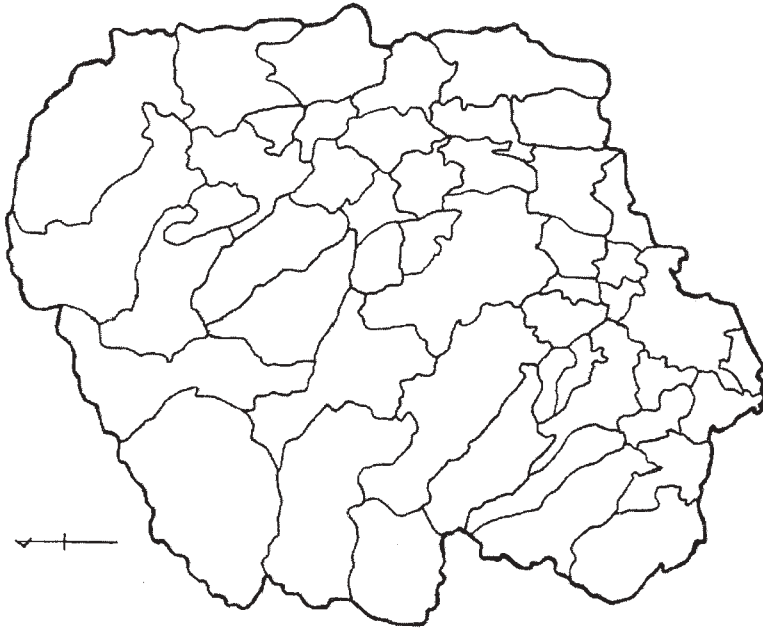
67. 8%

4の答え

1 2 3 4

- ② 次の1, 2, 3, 4の問いに答えなさい。

- 1 次の図は、栃木県の白地図です。この中から自分の学校のある市町村をさがし、えんぴつでぬりなさい。



60. 5%

- 2 次の文は、栃木県の土地の様子についてのべたものです。次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

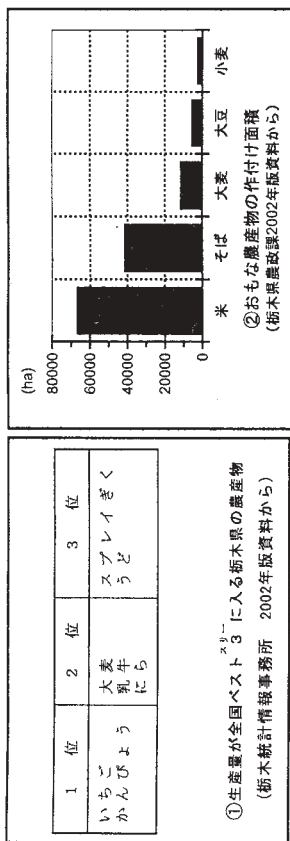
1 東のほうには山が多く、西のほうは平地が広がっている。
2 北と南のほうに山が多く、中ほどには平地が広がっている。
3 北から西のほうに山が多く、中ほどから南のほうに平地が広がっている。
4 南のほうには山が多く、北のほうには平地が広がっている。

57. 3%

2の答え

1 2 3 4

3 次の資料は、栃木県の農業についてのものです。資料を見て分かることを、正しくのべた文はどれとどれですか。次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。



ア かんぴょうの生産量は全国1位だが、年々その量はへってきている。
 イ 作付け面積では米が最も広く、大麦の約6倍である。
 ウ いちごの生産量は全国1位である。
 エ 米を作っている農家の数は約67000戸である。

1 アとイ 2 ウとエ 3 アとエ 4 イとウ

5 8. 3 %

3の答え 1 2 3 4

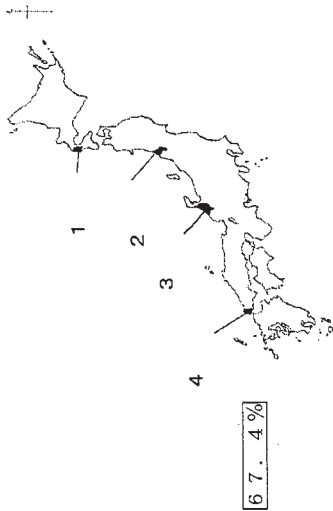
4 たくやさんのクラスでは、栃木県の伝とう工芸品をつくっている人々の努力について調べることにしました。調べ方として最もふさわしいのを、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

- それぞれの役場や市役所に電話して、地図を送ってもらう。
- 図書館で、日本の歴史の本を調べる。
- 家にある伝とう工芸品を持ちよる。
- 伝とう工芸品をつくっている工場に見学に行つて、働いている人に質問する。

7 5. 9 %

4の答え 1 2 3 4

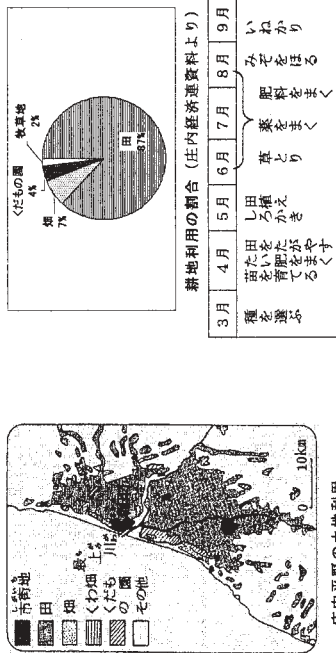
3 次の1から6の間に答えなさい。
 1 庄内平野はどこですか。次の地図の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。



6 7. 4 %

1の答え 1 2 3 4

2 次の資料は、庄内平野の農業に関するものです。資料から分かったことを の中にまとめました。【資料から分かったこと】の にあてはまるものを、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。



【資料から分かったこと】

庄内平野の米づくり農家の仕事

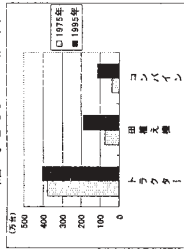
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
種をまき	苗を育てる	田を準備する	田を準備する	草をとり	稲を刈る	稲を刈る	稲を刈る
稲を刈る	稲を刈る	稲を刈る	稲を刈る	稲を刈る	稲を刈る	稲を刈る	稲を刈る

- 米の品種改良を行っている。
- 夏の日照時間の長いことを利用した米づくりが行われている。
- いねかりが終わると、たい肥づくりが行われている。
- つくられた米は、温度などに気をつけて保管されている。

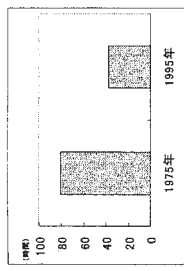
7 1. 1 %

2の答え 1 2 3 4

3 次のグラフを見て、農業の機械化と米づくりにかかる時間の関係を、あとの
 の中の二つの語句を使って説明しなさい。



農業機械の数
 (農林水産省統計表より)



米づくり農家の農作業にかかる時間 (10aあたり)
 (農林水産省統計表より)

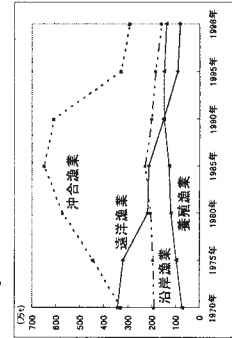
農業機械 米づくりにかかる時間

3の答え

53. 6%

⑪

4 次のグラフは、日本の水産業の漁業別のとれ高の変化を表したものです。1977年
 (昭和 52年) ごろから 200 海里水域の制限で大きなえいぎょうを受け、とれ高がへ
 ったのはどれですか。次の 1, 2, 3, 4 の中から一つ選んで、その番号を○で囲
 みなさい。



- 1 沖合漁業
- 2 遠洋漁業
- 3 沿岸漁業
- 4 養殖漁業

4の答え 1 2 3 4 ⑫

漁業別のとれ高の変化 (数字で見る日本の100年) より

60. 0%

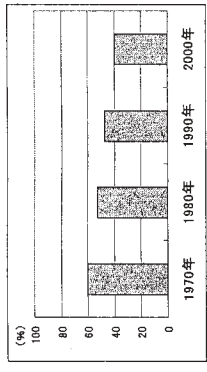
5 養殖 漁業のよい点をのべている文はどれですか。次の 1, 2, 3, 4 の中から一
 つ選んで、その番号を○で囲みなさい

- 1 魚を計画的に育てるので、収入が安定する。
- 2 自然に育つので、育てる手間がかからない。
- 3 えさが必要なので、えさ代がかからない。
- 4 すべて屋内の作業になるので、天候の心配がない。

72. 5%

5の答え 1 2 3 4 ⑬

6 次のグラフは、日本の食料自給率 (食料がどれくらい国内生産でまかなわれている
 か) のうつり変わりを表したものです。食料自給率が年々下がりがり、国内生産でまかな
 われる割合が減ってきています。これを見て、ちひろさんは吹き出しのように考えま
 した。

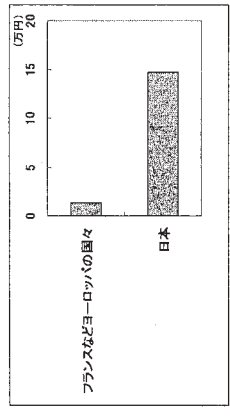


日本の食料自給率 (「食料需給表」平成12年より)

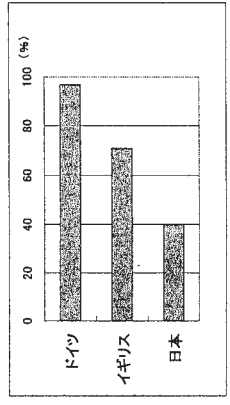
これからも、外国から食料
 を輸入すべきです。



あなたは、ちひろさんの考えについてどう思いますか。グラフを見たりこれまでの
 学習をふり返ったりして、あなたの考えに近いものを下のア, イ, ウの中から一つ選
 び、その記号と選んだ理由を 〆 の中に書きなさい。



小麦1tを農家が出荷するときのねだん
 (食糧庁調べ)



世界の主な国の食料自給率
 (「食料需給表」平成12年より)

- ア ちひろさんの意見に賛成です。(食料を輸入すべきです。)
 イ ちひろさんの意見に反対です。(食料を自給すべきです。)
 ウ その他の考えです。

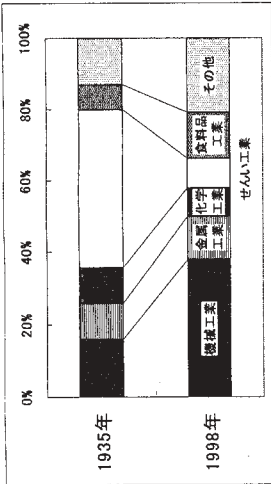
61. 0%

6の答え

あなたの考えに近い記号	
理 由	

⑭

3 次のグラフは、工業の種類別の生産額の割合を表したものです。このグラフの1935年と1998年を比べて分ける大きな変化を、の中に書きなさい。



工業の種類別の生産額の割合 (「工業統計表」平成10年より)

3 の答え

⑩

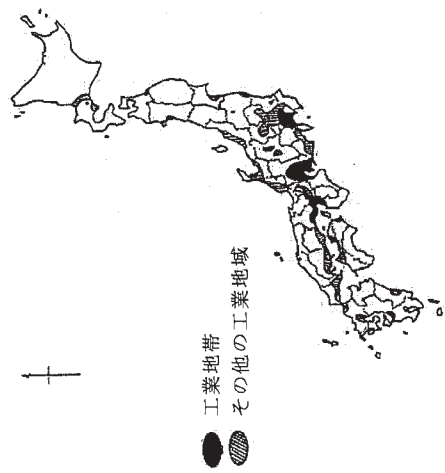
4 次の1から5の問いに答えなさい。
1 これからのことを考えて行われている自動車づくりについてのべた文はどれとどれですか。次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

- ア 速く走るためだけの自動車づくりを進めている。
- イ 同じ自動車を大量に生産しておき、自動車が不足しないようにしている。
- ウ 安全な自動車の開発を進め、人にやさしい自動車づくりをしている。
- エ 部品を再利用したり、排気ガスをへらしたりしている。

1 2 3 4

1 の答え ⑮

2 次の地図は「日本の工業のさかんな地域」を表したものです。地図を見て分かる工業のさかんな地域についてのべた文を、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。



工業生産のさかんな地域

- 1 海岸ぞいより、海岸からはなれた内陸の方にたくさん広がっている。
- 2 内陸の方にはまったくなく、すべて海岸ぞいに広がっている。
- 3 関東地方から九州地方北部にかけての太平洋側を中心に広がっていて、日本海側や内陸部にも見られる。
- 4 日本海側を中心に広がっていて、太平洋側にはまったく見られない。

2 の答え ⑮

4 次の(1), (2), (3)の問いに答えなさい。

- (1) 「大工場と中小工場と働く人一人あたりの生産額」について調べることができる資料を、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

8 2 . 8 %

(1)の答え

1 2 3 4

- (2) 「大工場と中小工場の工場の割合」について調べることができる資料を、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

6 4 . 6 %

(2)の答え

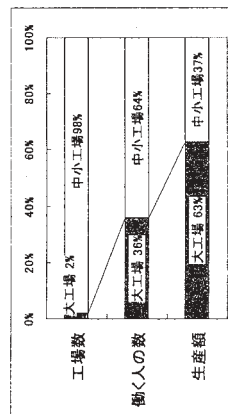
1 2 3 4

- (3) 「大工場と中小工場が生産しているもの」について調べることができる資料を、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

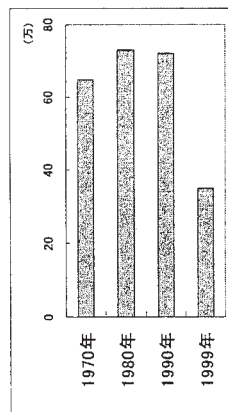
7 8 . 5 %

(3)の答え

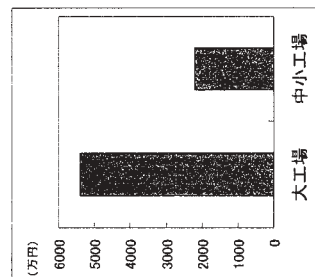
1 2 3 4



1 規模別の工場数・働く人・生産額の割合 (1999年)

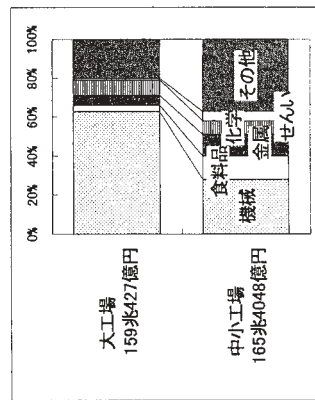


2 工場数のうつり変わり



3 働く人一人あたりの生産額 (1999年)

(日本国勢協会1999/2000・「工業統計表」平成10年より)

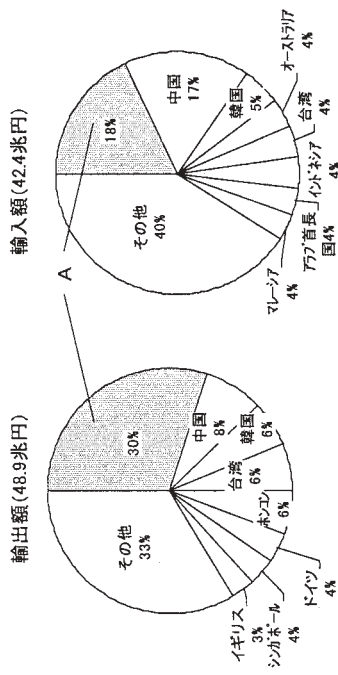


4 規模別・種類別の生産額の割合 (1997年)

(日本国勢協会1999/2000・「工業統計表」平成10年より)

5 次の(1), (2)の問いに答えなさい。

- (1) 次のグラフは、日本のおもな貿易相手国と輸出入額を表したものです。Aにあてはまる国を [] の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。



日本のおもな貿易相手国 (日本国勢協会2002/2003より)

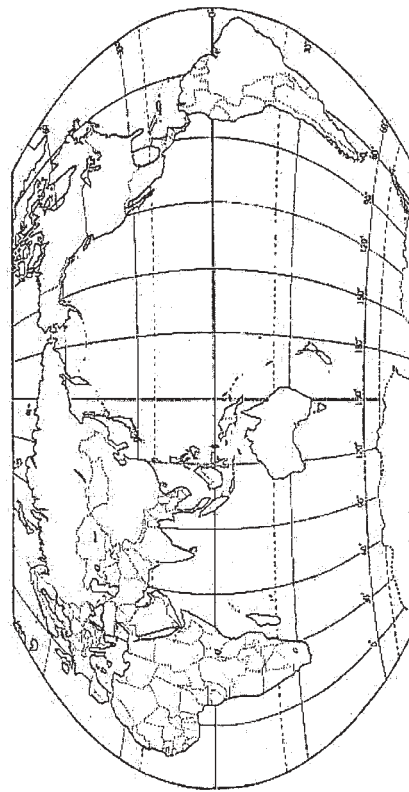
1 アメリカ合衆国 2 ブラジル 3 フランス 4 インド

9 1 . 7 %

(1)の答え

1 2 3 4

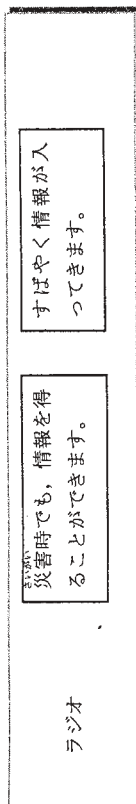
- (2) (1)で答えた国は、次の地図のどこにありますか。その部分をえんぴつでぬりなさい。



4 2 . 2 %

2

- 5 ラジオは、情報^{じょうほう}を手に入れるために便利なものです。ひろさんは、ラジオがどんな特徴^{とくちょう}をもっているのか調べて、次の図のようにならめました。



ひろさんは、新聞とインターネットについても、それぞれどんな特徴をもっているのかまとめることにしました。下のアからエのカードは、それらの特徴です。次の1, 2の問いに答えなさい。

【カード】

ア 機械にたよらず、情報を得ることができます。	イ 世界中の必要な情報を、コンピュータなどを使って自分で探すことができます。
ウ 毎日の情報を、気軽に手に取って読むことができます。	エ 情報を得るだけでなく、自分から送ることができることができます。

- 1 新聞の特徴をよくあらわしているカードの組み合わせを、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

1 ☐ アとイ 2 ☐ アとウ 3 ☐ イとウ 4 ☐ イとエ

82. 8% 1の答え 1 2 3 4 23

- 2 インターネットの特徴をよくあらわしているカードの組み合わせを、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

1 ☐ アとイ 2 ☐ アとウ 3 ☐ イとウ 4 ☐ イとエ

86. 7% 2の答え 1 2 3 4 24

採点基準及び個別応答票記入上の手引き（社会）

〔留意事項〕

- センターへの報告は、「個別応答票」に処理コードを転記することで行う。
 （「配点例」の欄は、学校が独自に集計分析する場合の参考としての例示であり、センターに得点の報告は行わない。）
 ○「個別応答票」に転記する処理コードの記入の仕方は、次のとおりである。

「正答(解答類型)」欄が 数字(選択肢)の場合	処理コード欄は、「(空白)」となっている。	⇒	児童の解答した選択肢を個別 応答票にそのまま転記する。
「正答(解答類型)」欄 が、3つ以上の場合	処理コード欄は、 「1, 2, …」の 数字が入っている。	⇒	記入ミスを防ぐた めに、児童解答欄 の()に処理コード を転記する。
		⇒	児童の解答に最も 近い処理コードを 個別応答票に転記 する。

平成14年度 小学校第5学年

社会科 No. 1

問題番号			通し 番号	正 答 (解 答 類 型)	処理 コード	採点上及び転記上の留意点	配 点 例
大 問	中 問	小 問					
1	1		①	3			3
	2		②	3			3
	3		③	2			3
	4		④	1			4
2	1		⑤	自分の学校のある市町村を染めている。	1	該当市町村の位置が分かる程度に染められているもの（該当市町村の一部だけ染められていたり、隣接市町村の一部にかかっていたりしても可）→正答	5
				隣接している市町村を染めている。	2	→誤答	
				離れた市町村を染めている。	3	→誤答	
	2		⑥	3			4
	3		⑦	4			5
	4		⑧	4			3
3	1		⑨	2			3
	2		⑩	3			4
	3		⑪	いろいろな種類の農業機械の数がふえ、米づくりにかかる時間がへった。 など	1	二つの言葉を使い、同じ意味であるもの→正答	5
				農業機械の数がふえた。 米づくりにかかる時間がへった。 など	2	どちらか一つの言葉のみで記述されているもの→誤答	
				その他の誤答	3		
	4		⑫	2			3
	5		⑬	1			3

問題番号			通し 番号	正 答 (解 答 類 型)	処理 コード	採点上及び転記上の留意点	配 点 例	
大 問	中 問	小 問				・無答は処理コード8 ・未履修は処理コード9 ・解答はひらがなでもよい。		
3	6	14	この問題のみ、未履修の処理コード9を例外的に解答類型の処理コードとして使用する。					7
			アの 記 述 例	1	国産に比べて外国産の方が安いから、外国産の食料を輸入すべきである。 工業製品をたくさん輸出しているので、その分外国産の食料を輸入すべきである。 など	輸入品の安さ、外国との輸出入のバランスからの理由が記述されているもの→正答		
				2	年々食料自給率が下がっている ので、外国産の食料を輸入すべきである。 など	グラフの自給率低下からの理由が記述されているもの→正答		
				6	日本で生産できない食料が食べられなくなるから、輸入すべきである。 など	上記以外の理由が記述されているもの→正答		
				9	食料を輸入すべきだから。 など	食料輸入そのものを理由として記述しているもの、選択肢と記述された理由が合っていないもの→誤答		
			イの 記 述 例	3	食料を輸入する国が、紛争や自然災害で生産できなくなると困るので、日本で食料を自給すべきである。 国産の食料の方が、安心して食べることができるから。 など	紛争や自然災害などによる外国との関係悪化や、安全面からの理由が記述されているもの→正答		
				4	外国は食料自給率が高いので、日本も食料を自給すべきである。 など	グラフの自給率の比較からの理由が記述されているもの→正答		
				6	農家の人がいなくなってしまうので、食料を自給すべきである。 など	上記以外の理由が記述されているもの→正答		
				9	食料を自給すべきだから。 など	食料自給そのものを理由として記述しているもの、選択肢と記述された理由が合っていないもの→誤答		
			ウの 記 述 例	5	自給率の低い食料を輸入し、高い食料は自給を目指す。 など	部分的に食料自給や輸入をする理由が記述されているもの→正答		
				6	食べ残しなど、自分たちの食生活を見直すことが大切である。 など	上記以外の理由が記述されているもの→正答		
				9	よく分からない。 など	選択肢と記述された理由が合っていないもの→誤答		
			無 答		8	選択肢だけが記入され、理由が記述されていないものも含む。		

問題番号			通し 番号	正 答 (解 答 類 型)	処理 コード	採点上及び転記上の留意点 ・無答は処理コード8 ・未覆修は処理コード9 ・解答はひらがなでもよい。	配 点 例
大 問	中 問	小 問					
4	1		⑮	4			5
	2		⑯	3			4
	3		⑰	機械工業がふえ、繊維工業がへった。 1935年にさかんだった繊維工業の割合がへり、1998年には機械工業の割合がふえた。 など	1	機械工業と繊維工業の二点について記述されているもの→正答	6
				機械工業がふえた。 繊維工業がへった。 など	2	機械工業と繊維工業のどちらか一点について記述されているもの→誤答	
				1935年は、せんい工業が多い。 1998年は、機械工業が多い。 など	3	各年のみを記述しているもの→誤答	
				その他の誤答	4		
	4	(1)	⑱	3			4
		(2)	⑲	1			4
		(3)	⑳	4			4
	5	(1)	㉑	1			3
		(2)	㉒	アメリカ合衆国を染めている。	1	アメリカ合衆国の位置が分かる程度に染められているもの（ハワイやアラスカを染めていなくても、カナダやメキシコの一部にかかっている可）→正答	5
				アメリカ以外の北アメリカ州を染めている。	2	→誤答	
				南アメリカ州を染めている。	3	→誤答	
				アジア・ヨーロッパ州を染めている。	4	→誤答	
				オセアニア州を染めている。	5	→誤答	
				アフリカ州を染めている。	6	→誤答	
5	1		㉓	2			5
	2		㉔	4			5

応答状況一覧表(社会)

小 5 社

問題番号				応答	応答率				問題番号				応答	応答率				問題番号				応答	応答率							
大問	中問	小問	通番号		全県	A	B	C	大問	中問	小問	通番号		全県	A	B	C	大問	中問	小問	通番号		全県	A	B	C				
①	1		①	1	5.8	4.4	9.2	3.2	1			⑨	3	22.8	27.8	19.4	20.7	3			⑪	3	7.1	7.7	5.8	7.9				
				2	6.3	6.6	7.1	4.7					4	3.5	4.2	3.1	2.9					4	10.5	11.5	9.6	10.2				
				③	66.9	70.5	58.0	74.0					無	0.8	1.1	0.7	0.6					無	5.5	5.5	7.4	2.9				
				4	20.8	18.3	25.7	17.8																						
				無	0.2	0.2	0.0	0.3																						
	2		②	1	14.3	11.3	16.1	16.0	2			⑩	1	6.8	6.2	7.6	6.7	(1)			⑬	1	10.1	9.7	11.6	8.7				
				2	29.3	30.3	28.3	29.4					2	13.2	9.7	15.6	14.6					2	3.6	3.1	4.9	2.6				
				③	52.0	54.3	50.7	50.5					③	71.1	73.7	68.8	70.5					③	82.8	83.4	79.2	86.7				
				4	4.0	3.5	4.7	3.8					4	8.1	9.7	7.1	7.3					4	2.9	2.9	3.6	2.0				
				無	0.4	0.7	0.2	0.3					無	0.8	0.7	0.9	0.9					無	0.6	0.9	0.7	0.0				
	3		③	1	10.2	8.2	13.4	8.7	3			⑪	①	53.6	53.3	55.1	52.4	4	(2)		⑭	①	64.6	64.5	62.2	67.6				
				②	79.2	79.6	76.3	82.3					2	16.9	16.3	14.1	21.3					2	16.6	15.2	17.2	17.8				
				3	2.7	3.1	2.5	2.6					3	17.4	16.3	17.4	18.7					3	5.3	4.9	6.3	4.7				
				4	7.4	8.4	7.6	5.8					無	12.1	14.1	13.4	7.6					4	12.8	14.3	13.4	9.9				
				無	0.5	0.7	0.2	0.6														無	0.7	1.1	0.9	0.0				
	4		④	①	67.8	70.0	64.5	69.1	③	4		⑫	1	32.7	30.0	39.3	27.7	(3)			⑯	1	10.7	9.9	13.6	7.9				
				2	10.3	10.4	10.7	9.6					②	60.0	61.9	54.7	64.7					2	3.3	3.5	4.0	2.0				
				3	10.1	7.9	12.3	10.2					4	3.5	3.5	3.1	3.8					3	6.7	6.4	7.1	6.4				
				4	11.1	10.8	11.8	10.5					無	0.3	0.4	0.0	0.6					④	78.5	79.1	74.4	83.4				
				無	0.7	0.9	0.7	0.6														無	0.8	1.1	0.9	0.3				
① 完 正				24.1	26.9	21.4	23.9	③	5		⑬	①	72.5	75.5	66.9	76.1	(1)			⑰	①	91.7	91.6	91.7	91.8					
												2	10.4	10.2	11.6	9.0					2	3.3	3.3	3.6	2.9					
												3	7.1	6.8	7.4	7.0					3	2.0	2.0	1.3	2.9					
												4	9.1	7.1	13.2	6.4					4	2.1	2.2	2.7	1.2					
												無	0.9	0.4	0.9	1.5					無	0.9	0.9	0.7	1.2					
1		⑤	①	60.5	62.0	55.6	65.0		6			⑭	①	3.8	3.0	2.7	6.4	5	(2)		⑱	①	42.2	36.6	40.7	51.9				
			2	14.9	12.6	19.0	12.5						②	5.7	5.3	5.8	6.1					2	26.8	27.6	26.6	25.9				
			3	19.3	19.9	19.6	18.1						③	10.2	33.6	7.4	14.0					3	4.1	4.0	4.5	3.8				
			無	5.3	5.5	5.8	4.4						④	3.5	2.9	4.0	3.8					4	15.7	17.7	15.2	13.7				
													⑤	2.8	3.0	1.7	4.1					5	1.4	1.3	2.0	0.6				
2		⑥	1	14.7	16.3	14.3	13.1		6			⑭	②	35.0	9.3	37.1	35.0	(2)			⑱	2	26.8	27.6	26.6	25.9				
			2	18.6	15.7	22.1	17.8						③	3.5	2.9	4.0	3.8					3	4.1	4.0	4.5	3.8				
			③	57.3	60.5	52.9	59.2						④	2.8	3.0	1.7	4.1					4	15.7	17.7	15.2	13.7				
			4	8.4	6.2	10.0	9.0						⑤	35.0	9.3	37.1	35.0					5	1.4	1.3	2.0	0.6				
			無	1.0	1.3	0.7	0.9						9	33.7	4.9	6.7	3.8					6	1.4	1.8	1.6	0.6				
									無	5.3	38.0	34.6	26.8	無	5.3	38.0	34.6	26.8	無	8.4	11.0	9.4	3.5							
②	3		⑦	1	8.0	8.4	8.5		7.0	③	完 正					2.2	2.0	1.3	3.5	④	完 正					14.8	13.5	12.9	19.0	
				2	24.7	20.8	29.0		24.2																					
				3	8.8	9.1	8.0		9.3																					
				④	58.3	61.3	54.5	59.5																						
				無	0.2	0.4	0.0	0.0																						
	4		⑧	1	6.5	5.5	8.0	5.8	2			⑮	1	8.4	7.3	10.0	7.6	⑤	2		⑮	1	4.6	2.2	7.8	3.5				
				2	12.0	10.6	12.5	13.1					2	16.6	16.6	18.5	14.3					2	3.5	2.9	4.0	3.8				
				3	5.2	6.4	4.5	4.7					③	69.9	69.7	66.6	74.6					3	5.0	4.4	5.6	5.0				
				④	75.9	76.6	75.0	76.1					4	4.6	5.7	4.2	3.5					④	86.7	90.1	82.6	87.7				
				無	0.4	0.9	0.0	0.3					無	0.5	0.7	0.7	0.0					無	0.2	0.4	0.0	0.0				
	② 完 正				23.6	24.7	19.9	26.8	3			⑮	①	52.3	49.9	52.6	55.4	⑤	完 正					71.5	63.8	74.8	77.3			
													2	24.6	25.4	24.6	23.6													
	1		⑨	1	5.5	3.8	7.1	5.8	3			⑮	①	52.3	49.9	52.6	55.4	⑤	完 正					71.5	63.8	74.8	77.3			
				②	67.4	63.1	69.7	70.0					2	24.6	25.4	24.6	23.6													